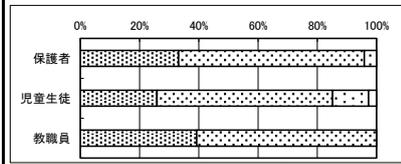


■ 4-そう思う □ 3-どちらかといえば、そう思う □ 2-どちらかといえば、そう思わない □ 1-そう思わない

学校教育目標について

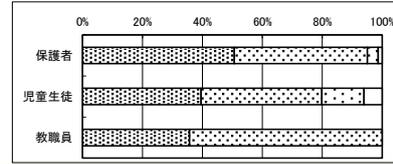
1

学校は、教育方針や教育目標等を子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



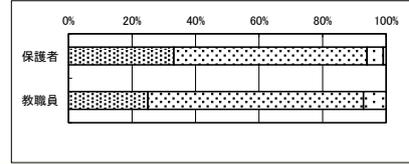
2

子どもは充実した学校生活を送っていると思いますか。



3

学校総体とし、先生方が連携・協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

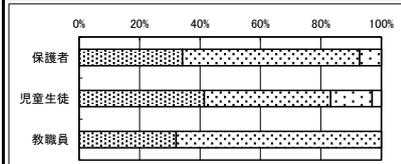


・ 学校教育目標については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が高い数値であるが、児童の割合は他の2者に比べて低い。内容を具現化して、わかりやすく示していく必要がある。  
 ・ 2では、昨年度と比べると保護者・教職員の「そう思う」は伸びているが、児童の「そう思う」は20%近く下がっている。原因を究明し、学校生活の充実を図る取組を進めていく必要がある。  
 ・ 3では、昨年度とほぼ変わらない傾向だが、保護者の「そう思う」の評価に少し伸びが見られた反面、教職員の「そう思う」の評価は17%下がった。保護者に対しては学校の教育活動の取組状況を様々な機会にさらに周知していく必要がある。また、教職員の連携・協力を深める取組を進める必要がある。

教科指導について

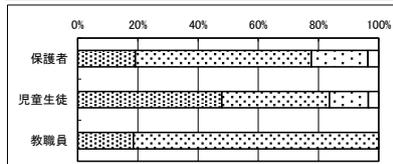
4

先生方は校内研修のテーマのもと、わかる授業、丁寧な指導・支援を行った授業づくりに努めていると思いますか。



5

子どもは意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

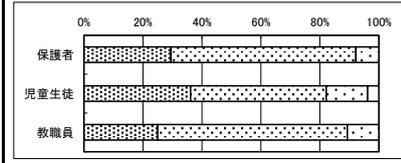


・ 4においては、保護者・教職員は昨年度と大きな変化はないが、児童の「そう思う」の割合が20%程度下がっている。「分かる・楽しい授業づくり」を合言葉に授業改善に取り組んできたが、児童にとって、わかる授業・丁寧な支援となっていなかったと言える。しっかりと原因を究明し、児童が中心となる「分かる・楽しい」授業づくりを3学期より実践していく必要がある。  
 ・ 5においても4同様に保護者・教職員は昨年度と大きな変化はないが、児童の割合下がっている。学校として学習状況の実態把握と、校内研修等で、学力向上に向けた取組の充実や児童が主体となる授業への改善に更に努める必要がある。

道徳教育 心の教育について

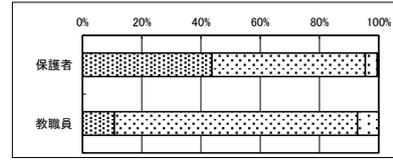
6

学校は思いやりの心や感謝の心等を大切にしている指導や対応ができていますか。



7

子どもは自他の命を大切にしている行動ができていると思いますか。

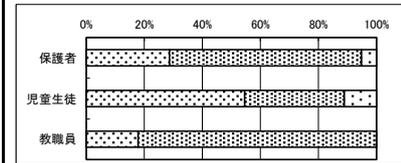


・ 6は、保護者が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が昨年同様高い数値である。しかし、児童・教職員の否定的評価が若干高まっており、原因を究明し、「特別の教科 道徳」を中心に思いやりの心や感謝の心等を大切にしている心情や実践的態度を育む必要がある。  
 ・ 7は、職員・保護者とも肯定的評価が90%を超え、高い数値である。特に保護者の「そう思う」の割合は昨年度と比べ11%高くなっている。引き続き命を大切にする教育をすべての教育で実践していきたい。

人権教育について

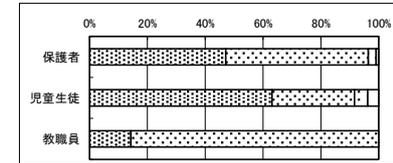
8

学校は一人一人の子どもを大切にしている（人権をふまえた）指導や対応ができていますか。



9

子どもは友達と仲良くしていると思いますか。

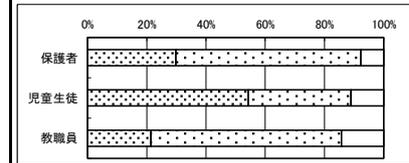


・ 8は、児童の意識（「そう思う」の割合）は高いが、保護者が同様の評価とはなっていないことを踏まえると、授業参観時の授業公開だけでなく、人権学習実施時に学級通信で学習内容や児童の様子などについて知らせるなどが必要である。情報公開とともに、児童一人一人を大切にしている観点から、課題に対して、職員全体で共通理解し、組織で対応できるように今後更に改善していきたい。  
 ・ 9は、肯定的な評価が3者とも昨年度より高くなっており、良好と言える。児童の中で9%が否定的な評価をしているので、引き続き「楽しい学校 笑顔広がる学校」づくりを職員と児童で実践していきたい。

学校行事について

10

学校では工夫された学校行事（運動会、文化祭など）がなされていると思いますか。

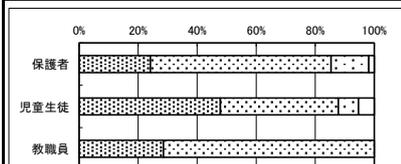


・ 昨年度と比較してみると、保護者には大きな変化はないが、児童・教職員ともに、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が低くなっている。コロナ禍が3年間継続している中で、学校行事のあり方や考え方に変化は生まれてきている。状況に応じた学校行事の実施を今後検討していく必要がある。  
 ・ 教育活動がさらに充実するよう、保護者・地域の方が来校しやすい行事等の工夫や広報・工夫にさらに努めたい。

生徒指導・教育相談について

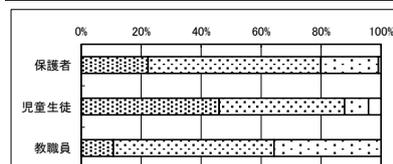
11

先生方は子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



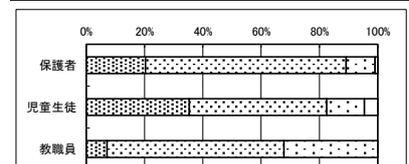
12

学校や地域で、子どもはあいさつがきちんとできていると思いますか。



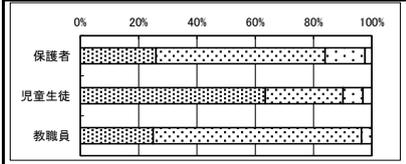
13

子どもはルールやマナーを守って行動していると思いますか。



14

学校では、いじめや不登校等に対して、事前に指導したり対応したりしていると思いますか。

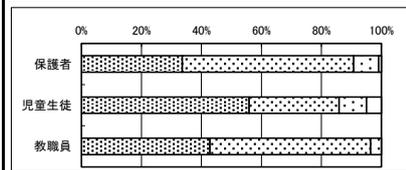


・児童理解については、「そう思う」と評価した割合は児童、教職員、保護者の順となっており、児童においては48%と高い評価となっているが保護者は24%と数値が低い。常に保護者と連携し、共通理解をしながら、指導にあたりたい。  
 ・あいさつに関しては保護者と児童の数値が昨年同様高くなっている。しかし、職員と児童・保護者との意識の差が大きい。児童自身は、できていると思っている子が多いが、客観的にみると、まだ不十分などところがある。保護者との連携を行いながら、次年度も、重点的に指導をしていく必要がある。  
 ・規範意識・公德心等については、教職員の肯定的な評価が昨年度より21%低下している。教職員はかなりの危機感を持っており日々の指導を取り組んでいる。保護者・児童の数値も昨年度より下がっているため、教育相談や生徒指導等の取組を今後も学校と保護者が協力して行い、心の成長やケア等を含めて進めていく必要がある。  
 ・いじめや不登校の対応については、児童の肯定的な評価が90%と高いが、児童と保護者の意識に乖離がある。  
 いじめ事案・不登校対応についてはこれまで同様保護者と連携して取り組むとともに、学校の取組を保護者に発信していく必要がある。

### 安全・健康教育について

15

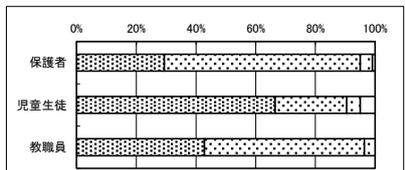
学校は子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



・15において、昨年度と大きな変化は見られない。児童の安全に関する意識が、「あまり思わない」「思わない」の児童が14%いる。  
 ・17では、「あまり思わない」「思わない」の児童の割合が20%いる。運動を好きにする取組が必要である。運動の2極化の流れがコロナ禍で、制限が多く、自由に遊んだり、運動できなかったりで更に進んでいると思われる。

16

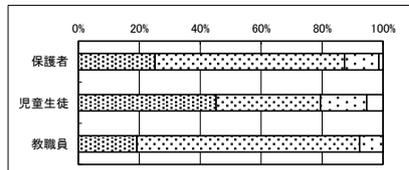
子どもは交通ルールを守ったり、不審等に気づけたりして登下校ができていますか。



・17では、「あまり思わない」「思わない」の児童の割合が20%いる。運動を好きにする取組が必要である。運動の2極化の流れがコロナ禍で、制限が多く、自由に遊んだり、運動できなかったりで更に進んでいると思われる。

17

子どもは進んでスポーツ等をしていると思いますか。



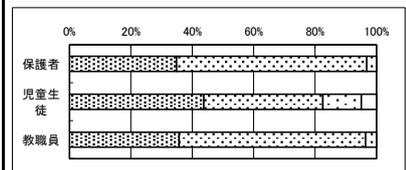
・17では、「あまり思わない」「思わない」の児童の割合が20%いる。運動を好きにする取組が必要である。運動の2極化の流れがコロナ禍で、制限が多く、自由に遊んだり、運動できなかったりで更に進んでいると思われる。

も

### 学校環境について

18

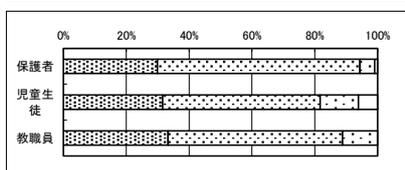
学校では校舎内外（掲示物や花壇等）がきちんと整備・管理されていると思いますか。



・18について、昨年度と比べて教職員の評価が高まり、否定的な評価が11%減少しているも、保護者・児童の評価は大きな変化はない。掲示教育や緑化に対する取組を定期的に行っていく必要がある。  
 ・施設の安全については、児童・教職員の評価が昨年度より低くなり、18%の児童が「あまり思わない」「思わない」と評価している。今年度は遊具等での怪我等もあり、そのことが影響している可能性もある。毎月、全職員で安全点検、衛生点検をしているが、まだ目の届かないところがあると思われる。児童の声も参考にしながら、施設・設備の適切な使用についても指導を行い、より安全な施設管理を行いたい。

19

学校の施設・設備は安全点検をし、よく整備・管理されていると思いますか。

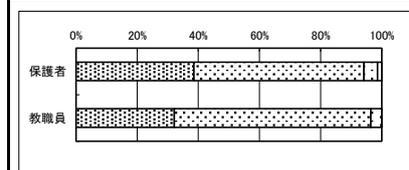


・18について、昨年度と比べて教職員の評価が高まり、否定的な評価が11%減少しているも、保護者・児童の評価は大きな変化はない。掲示教育や緑化に対する取組を定期的に行っていく必要がある。  
 ・施設の安全については、児童・教職員の評価が昨年度より低くなり、18%の児童が「あまり思わない」「思わない」と評価している。今年度は遊具等での怪我等もあり、そのことが影響している可能性もある。毎月、全職員で安全点検、衛生点検をしているが、まだ目の届かないところがあると思われる。児童の声も参考にしながら、施設・設備の適切な使用についても指導を行い、より安全な施設管理を行いたい。

### 情報の公開・発信について

20

学校からの文書や通信、メール等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。

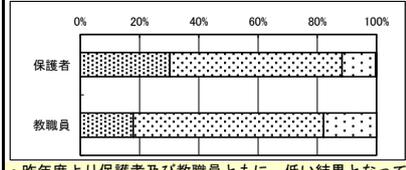


・保護者、職員とも比較的高い数値となっている。学校としては、学校通信、学級通信、一斉メール等での情報の発信や共有に努めていきたい。

### 家庭・地域の連携について

21

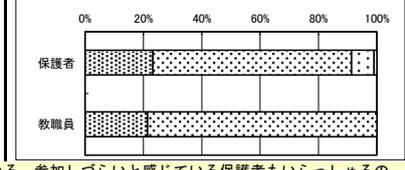
学校の教育活動に対して、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。



・昨年度より保護者及び教職員ともに、低い結果となっている。参加しづらいと感じている保護者もいらっしゃるため、更に工夫し、「開かれた学校づくり」を推進していく。

22

学校は家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

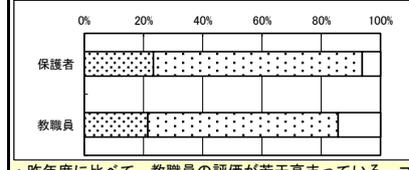


・91%の保護者が肯定的にとらわれている。コロナ禍3年目であったが、細やかに家庭訪問や電話連絡をしてきた成果であると考え。授業参観や懇談会、PTA総会など実施方法を検討しながら、できる限りの実施を行ってきており、次年度は保護者との関係を更に密にして教育活動を行っていく。

### 保・小・中連携について

23

学校は幼・保、小、中連携に努めた教育活動をしていると思いますか。



・昨年度に比べて、教職員の評価が若干高まっている。コロナ禍も3年目となり、昨年度までは実施できなかったことが実施できたことが要因である。連携強化に向けた取組の推進と取組状況の保護者への周知を強化していきたい。

### 来年度の具体的な取り組みについて

・学力充実の面では「誰1人として取り残さない」「分かる・楽しい」授業づくりのために丁寧な指導、学習の見取り等、教職員一人一人の授業改善を推進していく。家庭学習については家庭にも協力を依頼し、習慣化を図る。  
 ・子どもたちが安心して過ごせる学校づくりを行うために、SCやSSW、関係機関と協働し取組を進めていく。不登校を未然に防止するため、「愛の0（安心して過ごせる学級集団づくり）」・1（電話連絡を行う）・2（家庭訪問を行う）・3（組織で対応する）運動+1を実践する。特に、互いを思いやる学級集団づくりを心がけ、いじめ問題等には、迅速に学校組織で対応を進める。  
 ・環境整備に努め、毎月の安全点検及び衛生点検を充実させていく。改善箇所については素早く対応していく。環境部を中心に子どもとともに花いっぱい学校づくりを行う。  
 ・交通安全については児童の危機回避能力を向上させるため、保健の授業や交通安全教室などを充実させ事故防止に務める。  
 ・学校からの保護者への情報提供のあり方を向上させる。学校ホームページによる発信や学校安心メールでの情報提供など積極的に活用していく。  
 ・更に保護者との信頼関係を深めるため、授業参観、懇談会、教育相談、家庭訪問などを活用し、児童の様子を発信していく。